

平成31年度

(香川大学 ナーシング・プロフェッショナル育成入試)

問題冊子

教科等	ページ数
小論文Ⅱ	2

試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。

解答の書き方

1. 解答は、すべて別紙解答用紙の所定欄に、はっきりと記入すること。
2. 解答を訂正する場合は、きれいに消してから記入すること。
3. 解答用紙には、解答と受験番号のほかは、いっさい記入しないこと。

注意事項

1. 試験開始の合図の後、解答用紙に受験番号を必ず書くこと。
2. 問題の内容についての質問には、いっさい応じないが、その他の用事があるときは、だまって手をあげて、監督者の指示を受けること。
3. 試験終了時には、解答用紙を机上の右側に置くこと。
4. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

問題 次の文を読んで、以下の間に答えなさい。

◆職場体験の教育的な効果

少しばかり話が先走ってしまったので、元に戻そう。

職場体験にしてもインターンシップにしても、では、現に行われているそれらの体験学習は、キャリア教育としての十分な効果を上げているのだろうか。

(中略)

職場体験(インターンシップ)に関して、教育を実施する側からの効果の検証は、実はさまざまに行われている。しかし、総じて効果を測定するスパンが短いという弱点がある。つまり、こんな感じだ。――職場体験の事前と事後に、生徒たちに「自己効力感」や「進路意識の成熟」といった尺度を測るテストを受けてもらい、その数値を比較する。たいていの場合には、職場体験の実施後のほうが実施前よりも数値が伸びている。よって、「めでたし、めでたし」というわけである。(少々、戯画化している点をお許しいただきたい。)

しかし、こうした効果測定では、職場体験の直後に伸びた数値が、生徒のなかにきちんと定着し、その後も維持されているのかどうかはわからない。半年後には、数字が元に戻っているということも起こらないわけではない。

表は、労働政策研究・研修機構が、全国の二〇代半ばの若年者を対象として、彼らが中学・高校時代に受けたキャリア教育をどう評価しているのかを探ろうとした調査結果の一部である(『学校時代のキャリア教育と若者の職業生活』二〇一〇年)。

この年代の若者は、ちょうど日本においてキャリア教育が盛んになりはじめた時期に中・高の教育を受けた世代にあたる。また、「将来の進路や職業について学習したこと」を聞いているので、職場体験(インターンシップ)に限った回答ではないことにも注意が必要である。

それにしても、自分が受けたキャリア教育が「役立っている」と答える若者は、「かなり」と「やや」を足しても、中学時代のそれについては(ア)割弱、高校時代でも(イ)割弱しかない。これが現実である。「仮に」の話をして仕方がないのだが、しかし仮に、職場体験(インターンシップ)についてだけ聞いたとしても、それほど変わらない数字になるのではなからうか。

このことを、どう考えればよいのだろうか?

◆「体験」の着地するところ

実際に、職場体験に行ってきた直後の中学生たちに話を聞いてみると、職場体験が彼らに対してそれなりのインパクトを与え、さまざまな“気づき”や“考えさせられる”経験をもたらしたことがうかがえる。

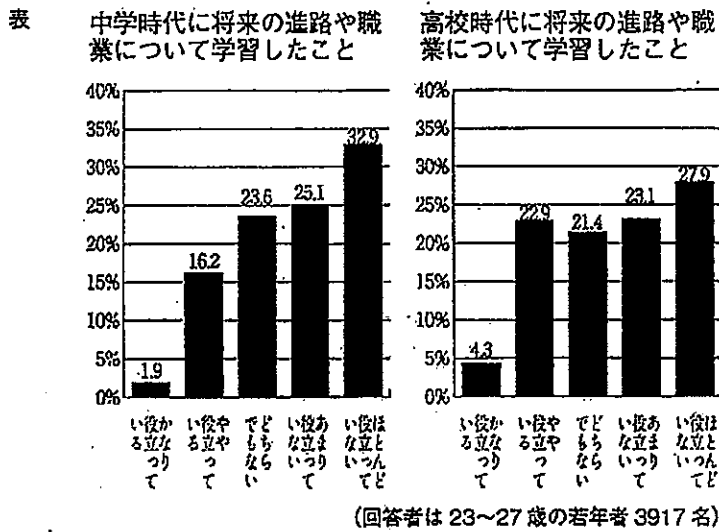
ではなぜ、それが彼らのなかに定着し、後々にまで影響を与えないのか?

答えは、実は単純なことであると、僕は考えている。

職場体験が「一過性のイベント」になっているからである。さらに言えば、「体験」の内容も、それこそ“受け入れ先”しだいで相当に違うのである。保育園に行く場合のように、保育士さんがするのとはほぼ同じ「仕事」を体験できることもあれば、工場などに出かけていく場合のように、工程全体の様子を観察することはできても、実体験としてはごくごく補助的な作業に従事するだけのこともある。あるいは、農村地域の中学校のように、農協

の店舗などに出かける生徒以外は、ほぼ全員が何らかの農業体験に従事するようなことだ
 っている。

したがって、職場体験は「体験」させるだけではダメで、それを意味づけるための振り
 返りや補充的な学習を必要とする。“仕事をしてみる”という体験だけが目的であるならば、
 やりっ放しでもいいかもしれない。それでも、勤労の大変さやきつさ、逆に、おもしろさ
 といったことはわかるだろう。しかし、職場体験を通じて、職場における仕事の流れや社
 会的分業の中でのその仕事のポジション、その職業の将来性や直面している課題、働いて
 いる人の労働条件といった点にまで関心を広げ、「職業（仕事）理解」につなげていくため
 には、事前および事後の学習指導が不可欠である。これがないと、「体験」は直後のインパ
 クトは強くても、いずれはイベント的な思い出に“風化”してしまう。



(児美川孝一郎：キャリア教育のウソ、筑摩書房、2018 初版第 9 刷から抜粋)

- 問 1 本文を読んで、職場体験の教育効果の検証についての課題を 60 字以内で書きなさい。
- 問 2 表を見て、本文中の (ア) (イ) に入る整数を漢数字で書きなさい。
- 問 3 本文を読んで職場体験が学生の中に定着しない理由を 2 つ書きなさい。
- 問 4 職業理解につなげるためには、著者は何が必要と述べているのでしょうか、100 字以内で書きなさい。
- 問 5 本文を読んで、あなたが受けたキャリア教育を振り返り、メリット・デメリットなどから、あなたが考えるキャリア教育について 450 字以内で述べなさい。